

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	消化管がん進展過程におけるエピゲノム異常と noncodingRNA 発現の統合解析
	研究目的	遺伝子から読み出される RNA の多くはタンパク質の設計図として働きますが、最近では、タンパク質の設計図ではない RNA にも様々な機能があることが解ってきて注目されています。この研究では、その中の一つで、胃がん細胞の増殖や、動き回って周りの正常な部分に入り込んでいく能力（遊走能、浸潤能）に係わることが実験や少数の患者さんの検体で解ってきた TM4SF1AS1 という名前の RNA について、2013 年 1 月 1 日～2017 年 12 月 31 日までに、実際に患者さんから手術で切除された多数の胃がん組織で、本当にその RNA の量が増加しているかどうかを検討し、その重要性を確かめます。
	研究期間	西暦 2018 年 1 月 25 日～西暦 2021 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input checked="" type="checkbox"/> その他 凍結組織 <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	臨床研究所・宮城洋平
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科(胃食道)、病理診断科、臨床研究所・がん分子病態学部
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	札幌医科大学医学部分子生物学講座・教授 鈴木 拓 東京大学医科学研究所・特任教授 / 滋賀医科大学・教授 醍醐弥太郎